

特色あるフロンティアスクールの取組事例

都道府県番号	15
都道府県名	新潟

(                )

村上市立村上第一中学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	4	4	4				2	14	28	
児童数	128	137	134				2	401		

・実践研究の概要

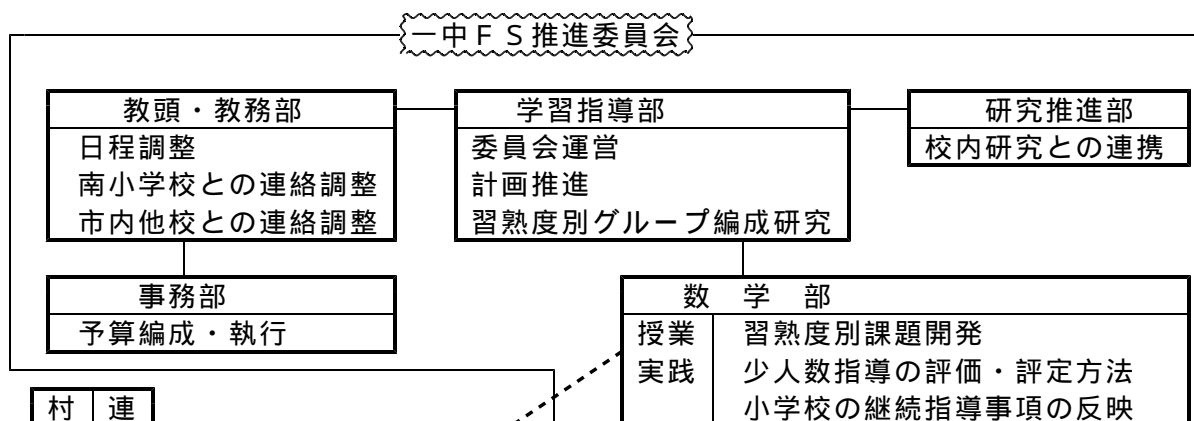
・主題（テーマ）  
意欲的に学習に取り組む生徒の育成

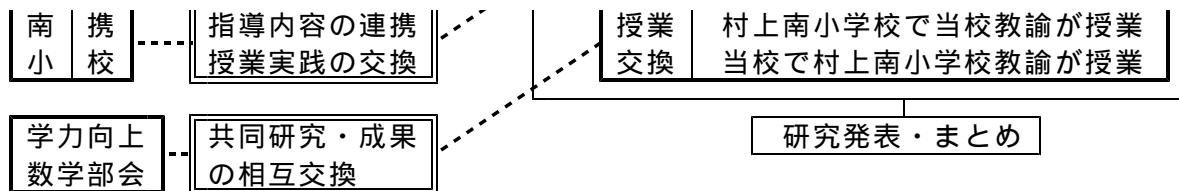
・テーマ設定の趣旨  
基礎・基本の確実な定着が不可欠である。そのために、定着の度合いを適切にみとり、個に応じた手だてを講じていく必要がある。  
知識詰め込み型の授業ではなく、問題解決学習を一層推進しなければならない。そのために、生徒が問題意識をもてるような課題及び課題提示の工夫、他の生徒との意見交換のさせ方、自らの考えを表現する場の設定などを考慮した授業改善を進める必要がある。  
評定を出すための評価ではなく、指導に生かすための評価への転換を図らなければならない。そのために、評価する側、される側の双方が納得し、生徒が前向きに取り組もうとする原動力となるような評価のあり方への改善を進めていく必要がある。

・実践研究の内容について（選択した観点を中心に記述）

( ) 研究体制の工夫

学習指導部が少人数指導の実践研究の推進を担う組織体制とし、研究推進部、教科部との連絡、調整を図っている。また、数学部の中に開発部門と情報交換部門とを設け、実践研究の推進に向けて分担を明確にした体制作りを工夫している。





( ) 実践研究の内容

2年数学科で、基礎コース、標準コース、応用コースの3コースを設定して、生徒にコースを自己選択させる少人数指導に取り組んでいる。

ア 学習集団（基礎、標準、応用）ごとの指導計画の作成

アルキメデス（基礎）コース

- ・ 小学校及び中学校1年の既習事項を系統的に復習する時間の設定
- ・ 実測や操作の採用および個別指導の充実

ガウス（標準）コース

- ・ 段階的な課題の設定
- ・ 苦手意識を持たない配慮

ニュートン（応用）コース

- ・ 複数の解法によって考えたり、話し合ったりする場の設定
- ・ 応用的な問題への取組

イ 評価計画に基づいた生徒の見取りと支援の工夫

それぞれのコースでは、次の表のように、評価計画に基づいた支援が行われている。

	評 価	支 援
アルキメデス	単位時間で学習した事柄を、その都度、きめ細かく評価	授業中の学習の進度に応じて形成的に評価しながら、その都度つまづきを解消できるよう指導を工夫している。
ガウス	数学的な見方や考え方の習得及び数学的な表現・処理の習熟を図る観点からの評価	学習プリントを活用し、机間指導しながら、一人一人の数学的な見方や考え方を大切にしている。
ニュートン	既習事項に基づいて根拠を明確にして自ら帰納的に見付け出す活動を通して、数学的な見方や考え方がより深まっているかどうかを評価	自力で解決することができずに困っている生徒に個別にアドバイスしている。

ウ 評価計画に基づいた生徒の見取りと支援（例）

学習集団に応じた評価を授業ごとに具体的に行う。

ガウスコースでは、授業中に「四角形、五角形の外角の和が360度であることを説明できる」という数学的な見方や考え方の習得を促す観点と、「多角形の外角の和が360度であることを用いて、練習問題に取り組みながら、多角形の未知の外角の角度を求めることができる」という数学的な表現・処理の習熟を図る観点から評価している。いずれも、机間指導と学習プリントによる評価を行った。

アルキメデスコースでは、一つの基礎的・基本的な内容を学習した直後に、その都度、その事柄について机間指導と学習プリントによってきめ細かく評価し、生徒の理解の定着を図っている。

ニュートンコースでは、多角形の外角の和の公式を、既習事項に基づいて根拠を明確にして自ら帰納的に見付け出す活動を通して、数学的な見方や考え方がより深まっているかどうかを評価している。

授業中の評価に基づいて支援する。

アルキメデスコースでは、事前の調査から、小学校での既習事項である「一直線は180度である」と「三角形の内角の和は180度である」についての正答率がそれぞれ33%、50%であった。そこで、授業では、全員で小学校での既習事項を振り返る活動から導入し、学習の進度に応じて形成的に評価しながら、その都度つまづきを解消できるよう指導している。

また、ニュートンコースでは、多角形の外角の和の公式を自分で導き出していく活動の中で、「三角形、四角形、五角形の外角の和を既習事項を基に求めることができたか」という数学的な見方や考え方の観点から評価を行っている。そこでは、既習事項に基づいて、「多角形の外角の和の公式を見つけよう」という課題を自力で解決することができずに困っている生徒に対して、既習事項を振り返りながら考えるよう個別にアドバイスしている。

## ( ) 成果と課題

### ア 成果

数学部の職員の意識変革を促すことができている。

中学校数学における少人数指導の典型例として普及できる成果を上げることができた。特に、補充的な指導については顕著な成果が認められている。

習熟度別編成等による少人数指導の評価と指導の一体化に関して質の高い取組が見られた。

### イ 課題

今後の実践研究の方向として、発展的な指導に対応できる指導計画や教材の充実、並びに各単元についての有効な少人数指導の指導方法及び指導体制の工夫改善が望まれる。

同一地域内のフロンティアスクールである村上南小学校との連携をより一層進め、小・中連携した少人数指導の実践研究が深まることが望まれる。

村上・岩船地域では、学習意欲向上事業と学力向上フロンティア事業とが同時進行している。今後は、両事業の実効を伴った推進と、成果の広い普及が望まれる。

## ( ) 成果の普及方策

中間発表会 平成14年12月2日(於、村上第一中学校)

テーマ 生徒の実態を考慮した各コースごとの指導法の実際

対象 村上・岩船地域小中学校、県内フロンティアスクール校

参加人数 38人